

かいとう 算数解答

1	①	5038	
	③	57	
	⑤	381	
	⑦	1458	
	(2)		12
			食分 <small>じきぶん</small> できて、64
			gあまる。

3点 × () / 8
小計 / 8

4	(1)	72	度
	(2)	41	度
5	(1)	①	台形 <small>たいけい</small>
	(2)	116	度
	①	36	cm
	②	54	cm

4点 × () / 8
3点 × () / 8
4点 × () / 8
小計 / 8

② ウ, カ

眼まなこ不同答

2	(1)	518000
	(2)	1300000
	(3)	① 650 (以上) ② 749 (以下) ③ 100 (二)
3	①	7.15
	③	10.5
	(2)	0.205
	(3)	0.01
(4)	0.29	L

3点 × () / 8
小計 / 8

選択問題 I

6	(1)	ウ
	(2)	12
	(3)	3
7	(1)	8
	(2)	4
	(3)	30

4点 × () / 8
小計 / 8

選択問題 II

8	(1)	51	cm ²
	(2)	256	cm ²
	(3)	74	cm ²
	(4)	4	cm
	①	72	cm ²
	②	4	cm

4点 × () / 8
小計 / 8

かい 解説

- 1 (1) ⑤ $405 - 216 \div 9 = 405 - 24 = 381$
 ⑥ $(28 + 322 \div 7) \times 15 = (28 + 46) \times 15 = 74 \times 15 = 1110$
 ⑦ $\square \div 27 = 54 \rightarrow \square = 54 \times 27 = 1458$
- (2) $1\text{kg} = 1000\text{g}$ です。 $1000 \div 78 = 12$ あまり64より、12食分できて、
 そばは64gあまりです。
 (1) 上から4けた目を四捨五入します。上から4けた目は4だから、4から下の位を切り捨てて、 $518472 \rightarrow 518000$ となります。
 (2) 一万の位を四捨五入します。一万の位は9だから、十万の位に1くり上がって、 $1297463 \rightarrow 1300000$ です。
 (3) 十の位を四捨五入して700になる整数は、650以上749以下です。
 650以上749以下の整数の個数は、 $749 - 650 + 1 = 100$ (こ)です。

- 3 (1) ① 筆算は、それぞれ右のようになります。
- ③ ()の中を先に計算します。
- $$\begin{array}{r} 5.70 \\ + 1.45 \\ \hline 7.15 \end{array}$$
- アの筆算
- $$\begin{array}{r} 9.40 \\ - 1.63 \\ \hline 7.77 \end{array}$$
- イの筆算
- $$\begin{array}{r} 8.27 \\ - 7.77 \\ \hline 0.50 \end{array}$$
- ※筆算はそれぞれ右のようになります。
- (2) 0.1 が2こで0.2、 0.001 が5こで0.005だから、
 $0.2 + 0.005 = 0.205$

- (3) 4は $\frac{1}{100}$ の位の数だから、 0.01 が4あることを表しています。
- (4) 水をたす前の水その水の量は、 $3.23 - 0.38 = 2.85$ (L)だから、へつた水の量は、 $3.14 - 2.85 = 0.29$ (L)

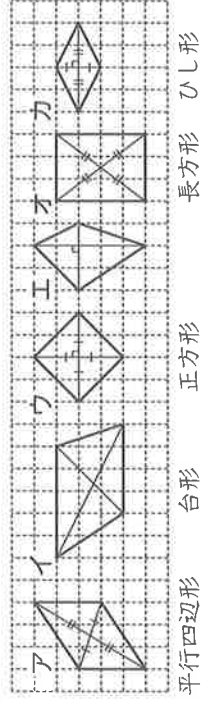
- 4 等しい角度をかき入れると、右の図1のようにになります。

(1) ⑦ $= 180 - 108 = 72$ (度)

(2) ① $= 108 - 67 = 41$ (度)

- 5 (1) アは平行四辺形、イは台形、ウは正方形、オは長方形、カはひし形です。それぞれの四角形に2本の対角線をかき入れると、下の図2のようになります。

図2

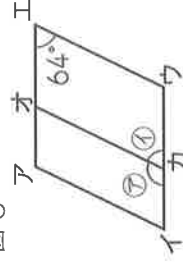
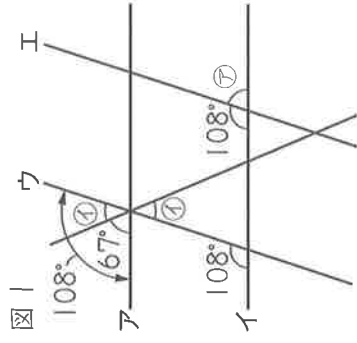


- ① 1組の辺が平行な四角形は台形だから、イは台形です。
- ② 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わるのは平行四辺形、ひし形、長方形、正方形で、このうち2本の対角線が垂直に交わるのはひし形と正方形です。よって、ウとカです。

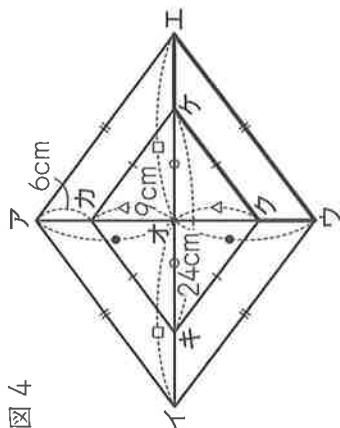
- (2) 四角形オカウエは平行四辺形だから、向かい合う角の大きさは等しく、右の図3で、

① $= 64$ 度です。

よって、⑦ $= 180 - 64 = 116$ (度)



(3)① ひし形のせいしつから、等しい長さと同じ印をつけると、右の図4のようになります。カキの長さは、 $60 \div 4 = 15(\text{cm})$ 、キオの長さは、 $24 \div 2 = 12(\text{cm})$ だから、三角形カキオのまわりの長さは、 $15 + 12 + 9 = 36(\text{cm})$



② アイの長さは、 $100 \div 4 = 25(\text{cm})$ 、アオの長さは、 $6 + 9 = 15(\text{cm})$ です。三角形アイオのまわりの長さは60cmだから、イオの長さは、 $60 - 25 - 15 = 20(\text{cm})$ で、オエ=イオ=20cm、オケ=キオ=12cmより、ケエの長さは、 $20 - 12 = 8(\text{cm})$ です。

また、ウオ=アオ=15cm、クオ=カオ=9cmより、クウの長さは、 $15 - 9 = 6(\text{cm})$ です。

ケク=カキ=15cm、ウエ=アイ=25cmより、求める長さは、 $ケク + クウ + ウエ + ケエ = 15 + 6 + 25 + 8 = 54(\text{cm})$

6 (1) 右の表の㉔~㉞のらんは、それぞれ次のような人を表します。

㉔ お正月にもおしるこも食べた人 → ウ
おしるこ → ウ

㉕ お正月には食べたが、おしるこは食べなかった

おしるこは食べなかった

人 → エ

㉖ お正月に食べた人 → ア

㉗ お正月には食べなかったが、おしるこは食べた人

㉘ お正月にもおしるこも食べなかった人

㉙ お正月に食べた人 → イ

㉚ おしるこを食べなかった人

(2) ㉑は、 $33 - 15 = 18(\text{人})$ だから、㉔は、 $18 - 6 = 12(\text{人})$

(3) お正月にを食べた人の人数は表の㉑にあてはまる数で18人です。また、おしるこを食べた人の人数は表の㉔にあてはまる数で、

$\text{㉑} = 6 + 6 = 12(\text{人})$ だから、 $\text{㉔} = 33 - 12 = 21(\text{人})$ です。よって、人数の差は、 $21 - 18 = 3(\text{人})$

* $\text{㉔} = 15 - 6 = 9(\text{人})$ より、 $\text{㉔} = 12 + 9 = 21(\text{人})$ と求めてもよいです。

7 (1) ㉔にあてはまるのは、2組で「地球の生き物」を選んだ人の数です。

表より、 $27 - 12 - 7 = 8(\text{人})$

いちばん勉強になったコーナー調べ (人)

コーナー	1組	2組	3組	合計
地球の歴史	7	12	㉑	㉒
地球の生き物	12	㉔	7	27
生物の進化	8	9	㉔	㉔
自然のしくみ	㉔	5	6	㉔
合計	㉑	㉒	32	97

(2) 1組で「自然のしくみ」を選んだ人の人数は、表の㉔にあてはまる数です。

㉒ = $12 + \text{㉔} + 9 + 5 = 12 + 8 + 9 + 5 = 34(\text{人})$ 、

㉑ = $97 - \text{㉒} - 32 = 97 - 34 - 32 = 31(\text{人})$ だから、

㉔ = $㉑ - 7 - 12 - 8 = 31 - 7 - 12 - 8 = 4(\text{人})$

(3) 「生物の進化」を選んだ人の人数の合計は、表の㉔にあてはまる数です。

表の㉑の人数が㉔より2人多いから、 $\text{㉑} = 4 + 2 = 6(\text{人})$ で、

㉔ = $32 - \text{㉑} - 7 - 6 = 32 - 6 - 7 - 6 = 13(\text{人})$ です。よって、

㉔ = $8 + 9 + \text{㉔} = 8 + 9 + 13 = 30(\text{人})$

* $\text{㉑} = 7 + 12 + 6 = 25(\text{人})$ 、 $\text{㉔} = 4 + 5 + 6 = 15(\text{人})$ だから、

㉔ = $97 - 25 - 27 - 15 = 30(\text{人})$ と求めてもよいです。

8 長方形の面積=たて×横, 正方形の面積=1辺×1辺です。

(1) $3 \times 17 = 51 (\text{cm}^2)$ (2) $16 \times 16 = 256 (\text{cm}^2)$

(3) 下の図5のように, ㉔と㉕の長方形に分けて求めると,

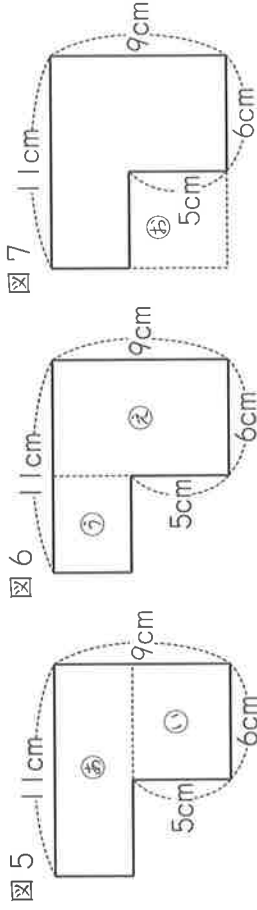
$(9-5) \times 11 + 5 \times 6 = 44 + 30 = 74 (\text{cm}^2)$

* 次のように求めてもよいです。下の図6のように, ㉑と㉒の長方形に

分けると, $(9-5) \times (11-6) + 9 \times 6 = 74 (\text{cm}^2)$

また, 下の図7のように大きな長方形の面積から㉓の正方形の面積を

ひくと, $9 \times 11 - 5 \times (11-6) = 74 (\text{cm}^2)$



(4) 正方形アイウエの面積は, 15×15

$= 225 (\text{cm}^2)$ だから, 長方形カキクケ

の面積は, $225 - 165 = 60 (\text{cm}^2)$ です。

右の図8のように, カケの長さを Δcm

とすると, 長方形カキクケの面積につい

て, $12 \times \Delta = 60$ より,

$\Delta = 60 \div 12 = 5 (\text{cm})$ です。

よって, $\square = 15 - 6 - 5 = 4 (\text{cm})$

* 右の図9のように㉖の部分で長

方形に分けて, 165cm^2 から㉗と㉘の

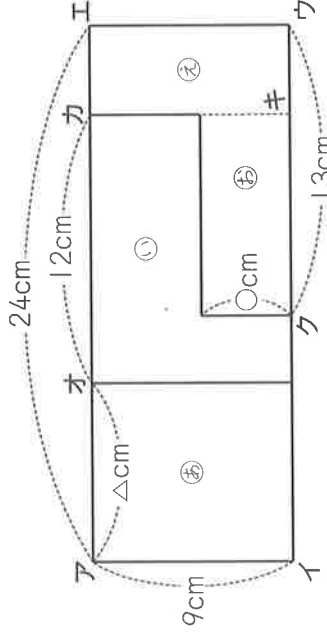
面積をひいて㉙の面積を計算し, ケ工

の長さを求めてもよいです。

(5) ① 長方形アイウエの面積は, $9 \times 24 = 216 (\text{cm}^2)$ だから, ㉚の長方形の面積は, $216 \div 3 = 72 (\text{cm}^2)$ *

② 下の図10で, アオの長さを Δcm とすると, ㉚の長方形の面積について, $9 \times \Delta = 72 \rightarrow \Delta = 72 \div 9 = 8 (\text{cm})$ です。

図10



①の部分を図10のように㉚と㉜の2つの長方形に分けると, ㉚の長方形の横(カ工)の長さは, $24 - 8 - 12 = 4 (\text{cm})$ だから, ㉚の長方形の面積は, $9 \times 4 = 36 (\text{cm}^2)$, ㉜の長方形の面積は, $72 - 36 = 36 (\text{cm}^2)$

また, ㉜の長方形の横(クキ)の長さは, $13 - 4 = 9 (\text{cm})$ だから,

㉜の長方形の面積について, $9 \times 9 = 36$ より, $9 = 36 \div 9 = 4 (\text{cm})$

* ㉚の部分を左右2つの長方形に分けて求めてもよいです。

* カ工の長さは次のように求めてもよいです。

㉚と㉜を合わせた長方形の面積は, $72 \times 2 = 144 (\text{cm}^2)$, カ工の長さは, $144 \div 9 = 16 (\text{cm})$ より, カ工の長さは, $16 - 12 = 4 (\text{cm})$

国語解答

1

小計	2点	()
正解	2点	()

(5)	起	きる	(1)	つ	む
(6)	梅	おぼえる	(2)	へいぜん	じょうきやく
(7)	投票		(3)		
(8)	昭和		(4)		

2

小計	2点	()
正解	2点	()

(3)	①	美しい	(1)	①	イ
	②	幸せ	(2)	②	ウ
	③	追いかける	(3)	③	イ
	④	試みる	(4)	④	エ
	⑤	交わる	(5)	⑤	ア
	⑥	速くはない	(6)		
	⑦	つても	(7)		
	⑧	わからない	(8)		
	⑨	追いかける	(9)		
	⑩	追いかける	(10)		
	⑪	追いかける	(11)		
	⑫	追いかける	(12)		
	⑬	追いかける	(13)		

(3) ①③表記はひらがな・漢字を問わない

(2) ひらがな以外不可

3

小計	4点	()
正解	4点	()

(7)	①	ドア	(1)	①	エ
	②	魚	(2)	②	ウ
	③	穴	(3)	③	「あ
	④	ね	(4)	④	「あ
	⑤	が	(5)	⑤	「あ
	⑥	め	(6)	⑥	「あ
	⑦	が	(7)	⑦	「あ
	⑧	ね	(8)	⑧	「あ
	⑨	が	(9)	⑨	「あ
	⑩	め	(10)	⑩	「あ
	⑪	が	(11)	⑪	「あ
	⑫	ね	(12)	⑫	「あ
	⑬	が	(13)	⑬	「あ
	⑭	め	(14)	⑭	「あ
	⑮	が	(15)	⑮	「あ
	⑯	ね	(16)	⑯	「あ
	⑰	が	(17)	⑰	「あ
	⑱	め	(18)	⑱	「あ
	⑲	が	(19)	⑲	「あ
	⑳	ね	(20)	㉔	「あ
	㉕	が	(21)	㉕	「あ
	㉖	め	(22)	㉖	「あ
	㉗	が	(23)	㉗	「あ
	㉘	ね	(24)	㉘	「あ
	㉙	が	(25)	㉙	「あ
	㉚	め	(26)	㉚	「あ
	㉛	が	(27)	㉛	「あ
	㉜	ね	(28)	㉜	「あ
	㉝	が	(29)	㉝	「あ
	㉞	め	(30)	㉞	「あ
	㉟	が	(31)	㉟	「あ
	㊱	ね	(32)	㊱	「あ
	㊲	が	(33)	㊲	「あ
	㊳	め	(34)	㊳	「あ
	㊴	が	(35)	㊴	「あ
	㊵	ね	(36)	㊵	「あ
	㊶	が	(37)	㊶	「あ
	㊷	め	(38)	㊷	「あ
	㊸	が	(39)	㊸	「あ
	㊹	ね	(40)	㊹	「あ
	㊺	が	(41)	㊺	「あ
	㊻	め	(42)	㊻	「あ
	㊼	が	(43)	㊼	「あ
	㊽	ね	(44)	㊽	「あ
	㊾	が	(45)	㊾	「あ
	㊿	め	(46)	㊿	「あ

(5) 書きぬき。完答

(6) ②書きぬき

(1) 書きぬき

4

小計	4点	()
正解	4点	()

(7)	①	前	(1)	①	ア
	②	足	(2)	②	ア
	③	やう	(3)	③	ア
	④	し	(4)	④	イ
	⑤	と	(5)	⑤	ア
	⑥	て	(6)	⑥	ウ
	⑦	も	(7)	⑦	ウ
	⑧	強	(8)	⑧	ウ
	⑨	い	(9)	⑨	ウ
	⑩	から	(10)	⑩	ウ
	⑪	前	(11)	⑪	ウ
	⑫	足	(12)	⑫	ウ
	⑬	やう	(13)	⑬	ウ
	⑭	し	(14)	⑭	ウ
	⑮	と	(15)	⑮	ウ
	⑯	て	(16)	⑯	ウ
	⑰	も	(17)	⑰	ウ
	⑱	強	(18)	⑱	ウ
	⑲	い	(19)	⑲	ウ
	⑳	から	(20)	⑳	ウ
	㉑	前	(21)	㉑	ウ
	㉒	足	(22)	㉒	ウ
	㉓	やう	(23)	㉓	ウ
	㉔	し	(24)	㉔	ウ
	㉕	と	(25)	㉕	ウ
	㉖	て	(26)	㉖	ウ
	㉗	も	(27)	㉗	ウ
	㉘	強	(28)	㉘	ウ
	㉙	い	(29)	㉙	ウ
	㉚	から	(30)	㉚	ウ
	㉛	前	(31)	㉛	ウ
	㉜	足	(32)	㉜	ウ
	㉝	やう	(33)	㉝	ウ
	㉞	し	(34)	㉞	ウ
	㉟	と	(35)	㉟	ウ
	㊱	て	(36)	㊱	ウ
	㊲	も	(37)	㊲	ウ
	㊳	強	(38)	㊳	ウ
	㊴	い	(39)	㊴	ウ
	㊵	から	(40)	㊵	ウ
	㊶	前	(41)	㊶	ウ
	㊷	足	(42)	㊷	ウ
	㊸	やう	(43)	㊸	ウ
	㊹	し	(44)	㊹	ウ
	㊺	と	(45)	㊺	ウ
	㊻	て	(46)	㊻	ウ
	㊼	も	(47)	㊼	ウ
	㊽	強	(48)	㊽	ウ
	㊾	い	(49)	㊾	ウ
	㊿	から	(50)	㊿	ウ

(5) 順不同・完答

(6) 書きぬき

(3) (別例)「若葉が、落とし物さがしの手伝いをすること。」
 (別例)「『あたし』に落とし物さがしを手伝ってもらえること。」
 (別例)「わかなが落とし物さがしと言ったこと。」
 ・「『あたし』が落とし物さがし。『あたし』が落とし物さがしの手伝い。」
 ・「あたしに落とし物さがしは0点。『あたし』は「若葉」でも可。」
 ・「シーラの(落とし物)」「いっしょに」「(さがして) くれる・もらえる」
 「(さがす) と言った」の有無は問わない。

かい せつ

1 漢字の読み書き

2 音読みと訓読み／送りがな／あやまつた文の書きかえ

- (1) それぞれの読みは、①「あま・ぐも」、②「ダイ・どころ」、③「な・ふだ」、④「に・モツ」、⑤「デン・チ」(ひらがなは訓読み、カタカナは音読み)となります。
- (2) ①「うつくしい」のように「くしい」という形のことば(例「新しい」「悲しい」「苦しい」「楽しい」など)は、原則として「しい」が送りがなになります。
- (3) ①「追いかけた」は、「犬を追いかけた」のように、「くを」ということばに対応する形のことばです。「くに」ということばに対応する形のことばは「追いかけられた」になります。
- ②「あまり」は、あとに「くない」という打ち消しの言い方をともなうことばです。
- ③「たとえ」は、あとに「くても(でも)」をともなうことばです。「ふつたら」に対応するのは「もし」ということばです。

3 物語(工藤純子「ピンポンはねる」より)

- (1) 「首をかしげる」は、疑問に思ったり、不審に思ったりする様子を表します。
- (2) ぼう線①のあとに「五年生にもなつて、道草してアリンコを見てるなんて、信じられない……」とあり、ウの内容と合っています。
- (4) 「あたし」が「空を見あげるふりをした」のは、通行人に子どもつばいことをしていると思われるのがはずかしかったからです。
- (6) ① ぼう線⑤の直後の「うーん」あたしは、イヤイヤのぞいてみた」から、魚めがねをのぞいてみることに気が進まない様子が読み取れます。
- (7) 「あたし」は魚めがねを通して見た世界が、自分がだん見ている世界とちがつていたということに「一瞬、ぐるんとめまい」がするようなショックを受けて、最終的に「もしかしたら人間同士でも、ちがうように見えてるのかもしれない」と考えています。エが正解です。アは「これからはどんな人でもなかよくできると自信がついた」が本文中からは読み取れません。イは、シラに感謝する様子が本文中に書かれておらず、「もつと二人でいろいろな話をした」と思っているかどうかは本文中からは読み取れません。ウは「何を信じて生活をしていけばよいのかわからなくなった」がふさわしくありません。

4 説明的文章(加藤由子「動物、子育てウオッチング」より)

- (2) サルの子どもが、母親の体の毛につかまるという内容に続けて、ぜつたいに母親の体からはなれないという内容が書かれているので、「そして」が入ります。
- (3) 「そういうこと」という指示語の指す内容は直前に書かれています。子どもを胸にだいたり、かたほうの足で子どもをささえたりといった、子どもが落ちないように工夫をすることを指しています。
- (4) ぼう線③と同じ段落に、はじめは母親のすぐそばで遊び、そのあとはなれていくとあります。しかし、どちらの場合も何かあればすぐに母親のもとにもどつてくると書かれています。
- (7) 母親に子どものサルがくつついて移動することや、母親が子どもの毛からゴミをとつてやること、母親がエサを食べる様子を見て子どもが何を食べられるかを学ぶことなど、子どものサルの成長を母親との関わり方を中心に説明しています。イの内容と合っています。アは「筆者がじつさいに見たことをもとに説明している」、ウは「サルの子どもが成長して一人で生きるようになるまで」、エは「人間の子育てとくらべながら説明している」が、それぞれふさわしくありません。